

2007年度 11/3(土)~11/4(日)

鈴鹿医療科学大学碧鈴祭
同窓会コーナーのお知らせ

2007年11月3日(土)、4日(日)に第17回鈴鹿医療科学大学『碧鈴祭』が開催されます。今年度も昨年度に引き続き、同窓会コーナーを設置します！同窓会コーナーでは同窓生同士の憩いの場や抽選会などを用意しています。

また、同窓会コーナーに来ていただいたお子様、ご家族様にも粗品を用意しております(先着)！

お友達、ご家族お誘い合わせの上、ぜひ同窓会ブースに足を運んでください！



大抽選会

日時:2007年11月3日(土)、4日(日)
両日ともに午前11時~午後4時
場所:実習棟2階4206教室
(放射線技術科学科実習室)

★☆☆☆☆景品☆☆☆☆

特賞「旅行券」

1等「家庭用プラネタリウム」

※その他景品あり

特賞、1等当選者の方には、同窓会会報記事へのご協力をお願いいたします。
(景品及び粗品については、無くなり次第終了とさせていただきますのでご了承下さい。)

昨年度の同窓会コーナーでは、卒業以来十数年ぶりの再会を楽しんだり、連絡先を交換したりする姿がみられました。また、旧友と共に出身学科の催し物に参加される方もおられました。参加していただいた卒業生からは『久しぶりに会えてとても楽しかった』、『増設されて大きくなった大学を見て驚いた』などの声を聞く事ができました。

11月3日、4日の大学祭にお越しの際には同窓会コーナーにもぜひお立ち寄り下さい！

皆様のお越しを心よりお待ち申し上げております。

目次 ~index~

●2007年度碧鈴祭【同窓会ブース】のお知らせ.....	1	●会報記事募集.....	6
●大学祭案内.....	2	●理事会議事録.....	6
●母校レポート(MDCT導入).....	2	●予算決算報告.....	6
●新理事長挨拶.....	3	●維持会費ご協力のお礼.....	7
●恩師メッセージ.....	4	●各種証明書発行の案内.....	7
●卒業生だより.....	5	●編集後記.....	7



鈴鹿医療科学大学

『碧鈴祭』 開催!!

11/3(土)4(日)10:00~16:00

2007年度鈴鹿医療科学大学祭『碧鈴祭』は11月3日~4日に開催されます。今年度も学科発表をはじめさまざまなイベントが行われます。

今年度の大学祭実行委員長は医療栄養学科 水野 梓さん(05生)です。水野さんに今年度碧鈴祭のアピールをしてもらいました。

鈴鹿医療科学大学『碧鈴祭』も今年で17回目となりました。今年の大学祭は11月3日(土)、4日(日)の10:00~16:00に開催致します。

今年の碧鈴祭のテーマは『PIECE(ピース)』です。この『PIECE(ピース)』とはジグソーパズルのピースのことで、1片、1切れという意味があります。実行委員会をはじめ在学生、卒業生、教職員の方々やその他関係者の方々、また当日出演して下さるゲストの方やご来場下さる方々、誰が欠けても完成しない、全員がそろって初めて完成し盛り上がるような大学祭にしたい

という思いを込めたものです。

内容については、クラブサークルの模擬店やさまざまなイベント、ゲストライブを予定しております。

模擬店は今年も個性的な模擬店が各種そろっています。イベントでは学生企画のイベントも充実しているほか、よさこい踊りグループや保育園園児による鼓笛隊、大道芸人の方々をお呼びし、より一層イベントを盛り上げていきます!また今年も、はしご車体験を実施する予定です。伊勢湾や鈴鹿市内が一望できるはしご車体験、ぜひ搭乗してみてください。ゲストライブは、1日目はインディーズバンドによるライブ、2日目はお笑い芸人によるライブを予定しております。学科発表では、新設学科も4学年そろい、ますます充実した内容となると思っております。自分の専攻学科以外の学科に触れる良い機会だと思っておりますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。

今年度の大学祭はテーマ『PIECE(ピース)』の通り、たくさんの方々に参加していただき、より大きな大学祭を完成させたいと考えております。卒業生の方々も在学中とは違った立場で参加していただき、一緒に大学祭を盛り上げていただければ幸いです。

なお、大学祭の詳しい内容や進行状況は碧鈴祭ホームページで確認することが出来ます。卒業生の方々のご来場を心よりお待ちしております。



碧鈴祭ホームページURL <http://www.suzuka-u.ac.jp/jim/gakusai/>



大学祭ブース案内 (放射線技術科学学科ブース)

今年度出展されるブースのひとつ、放射線技術科学科学学科ブースにスポットをあててみました。今年度、学科ブースがリニューアルするそうです!ぜひ、足を運んでみてください!

放射線技術科学学科の発表が今年度リニューアルします!!

毎年の卒業研究の発表に加え、実習施設を利用した体験コーナーを新設!! 最新CT装置、MRI、超音波装置のデモンストレーションをはじめ、白衣を着ての記念撮影まで、ワクワク企画満載でお届けの予定です!

場所:実習棟2階4207室、CT・MRI撮影室とその周辺

新しく生まれ変わった放射線技術科学学科の発表にぜひご来場ください!!!



母校しポート

MDCT導入!

今春放射線技術科学科学実習室にMDCT(Toshiba Aquilion 16)が導入され、稼動しています。MDCTは、多スライスを一度に撮影ができることによる高速撮影と細かいデータ収集による画像解像度の向上を実現しました。さらに、3D画像作成も可能です。同時に導入されたPCを介すれば、撮影した画像あるいは、撮影画像から作成した動画などを自宅に持ち帰り、自己学習に利用できるようになっています。

実習では、今期3年生実習で初めて使用されました。急速に進歩していく医療機器や医療技術に対応するため、

学生たちは日々学習すべきことが増えてきています。MDCT導入は最新医療機器を社会に出る前に身近で触れることができる点で、学生には大変好評です。

実習室内の雰囲気は、設立当初からほとんど変わらない懐かしい雰囲気ですが、実習機器は時代に合わせFPD、超音波装置、MDCTと徐々に新しいものに変化しつつあります。



新理事長挨拶

学校法人 鈴鹿医療科学大学
理事長 高木 純一



同窓会の皆様へ

同窓会の皆様、お元気にご活躍のことと思います。私はこの3月に学校法人鈴鹿医療科学大学の理事長に就任致しました。本学では過去9年間、法人事務局長、常任理事として大学運営の一翼を担ってまいりましたが、経営に関わる仕事をしてきたため、皆様に直接お目にかかる機会はほとんどなかったのではないかと思います。このたび、理事長就任に際し、同窓会の皆様にご挨拶させて頂く機会を得ましたので、皆様の母校である鈴鹿医療科学大学の近況や将来について述べさせて頂こうと思います。

母校というのはいつまでも気に掛かるものです。私は大学を卒業して30数年経ちましたが、母校はいまだに何故か気になる存在です。「同じ釜の飯を食った仲」というのは、本来、生活を共にした親しい仲間のことを意味するのですが、同窓というのは、必ずしも生活を共にしていなくても、「同じ釜の飯を食った仲」という感じがするものです。同じキャンパスで学んだというのは、時を超えて不思議な連帯感を生み出すのかも知れません。母校に不祥事があった時など非常に心配になりますし、良いことがあると妙に嬉しくなったりするもの

です。また、同窓生の活躍をマスコミで知った時など、自分のことのように喜んでしまうこともあります。皆様方が母校や同窓生に抱く思いもきっと同様だと思えます。

さて、1991年(平成3年)、日本で最初の4年制医療系大学として2学部4学科でスタートした大学も、来年には薬学部が新設され、4学部8学科を擁する医療福祉系総合大学となります。キャンパスも2つになり、敷地面積、延べ床面積、学生定員数などすべてにおいて、大学規模は設立当初の約2倍に拡張することになります。「この少子化時代に拡張ですか」と疑問を呈する声も聞かれますが、厳しい大学間のサバイバル競争に打ち勝ち、より良い大学へ発展させるためには避けて通れない道だと考えております。

10年前にはまだ珍しい存在であった医療系大学や医療系学部は、その後全国で新設が相次ぎ、今や溢れるばかりの状況になってきました。このような状況の中では、学生に質の高い教育と特色ある教育を提供することができなければ、生き残ることは出来ません。鈴鹿医療科学大学では、これから、それぞれの専門分野で質の高い教育を目指すことは勿論のこと、

医療福祉系総合大学でなければ出来ない特色ある教育を目指して行きます。学科増設はそのためであり、今年6月の三重大学との包括的連携協定締結は、それを補完する意味で、本学にとっては画期的なことだと思っています。

鈴鹿医療科学大学は、これからまだまだ進化を続けて行きます。同窓会の皆様を含めた、社会人の生涯教育もこれからの重要な使命と考えています。本学は(社)日本放射線技師会という職能団体が中心になって作った、日本で最初の、しかも唯一の大学です。原点に立ち返り、放射線技師会とは大学院社会人コースやサテライト・キャンパスの設置などの検討に入りました。さらに今後は、他の医療福祉関係団体とも連携を図り、社会人の幅広い大学院教育や生涯教育を実現したいと考えています。

魅力ある大学は、同窓会の皆様にとっても、誇らしい大学となるはずです。これから、鈴鹿医療科学大学は、より質の高い、より魅力ある大学を目指します。最後に、同窓会の皆様の力強いご支援を心よりお願いし、皆様方の益々のご隆盛を祈念致します。

恩師からのメッセージ

卒業生に向けて…… 2007年鈴鹿医療科学大学は今

■ 医用工学部医用情報工学科 河村徹郎先生



皆様こんにちは、医用情報工学科の河村です。開学当初の1991年4月赴任です。もう16年と何ヶ月か在職しています。従って医用情報工学科の卒業生だけでなく、他の学科の卒業生の方々も顔を合わせたことがあるかと思えます。

さてこの16年余の間、大学も取り巻く環境も大きく変わってきたように思います。この状況を少し顧みようと思います。

まず本学ですが、開設当初は2学部4学科(保健衛生学部:放射線技術科学科と医療栄養学科、医用工学部:医用電子工学科と医用情報工学科)でしたが、保健衛生学部には理学療法学科と医療福祉学科が加わりました。さらに鍼灸学部鍼灸学科が開設されるなど、3学部7学科の医療系専門職育成大学として充実整備が進められてきました。

また今年3月末には中村實先生が理事長を退任され、新しく高木純一理事長が就任されました。そして新理事長のもと、来年4月に開設すべく薬学部薬学科設立の申請がなされています。また6月22日には三重大学との間で包括的連携に関する協定が締結されました。このように三重県下の医療系専門職育成大学として目的と位置付けがより明らかになってきたと考えられます。

ところで上記のように教育体制の整備は進められつつありますが、外部の状況も大きく変わりつつあります。厳しいのが少子高齢化社会の進展に伴って受験生が減少していることでしょう(もちろん本学だけのことではないのですが)。これ

からのことを考え、各学科と事務局で協力して対策等を練っています。今年から始まった鍼灸学科と医療福祉学科の新しいAO入試も対策の一つと言えましょう。また受験生確保の一策として各学科でホームページの改訂作業を進めています。各学科の人材育成上の目的や教育目標をより明らかにし、PRに繋がるよう公開する予定です。近々更新されますのでご覧ください。

この他、大学の教育関連設備なども変わりつつあります。例えばインターネットは1997年4月から利用できるように整備されました。2007年、インターネット利用は当たり前な時代となり、例えば受験生へのアンケート調査によれば、入試情報はインターネットでの取得が一番多かった、と言うのが現実です。4年の就職も昔のような厚労省リクルートブックが送られてくることはなく、インターネットで探ります。また通信手段として携帯電話が普及し、ほぼ全学生が持っています。学生への教務関係の連絡を、携帯電話メールで行っている学科もあります。

時代の波と言えば、国の医療の情報化・ICT化施策も注目されます。具体的には厚生労働省が中心となり画像情報管理の電子化、電子カルテの導入、医療情報ネットワークを介した病診連携、個人の生涯健康管理への活用等の施策を進めています。医用情報工学科に関連することですが、このような時代の波と景気回復の動向と相まって、医療機関や医療情報産業からの求人情報は急激に増えてきました。(8

月末現在、4年生は39人ですが求人は企業から91件、医療機関等から89件あります。)

ところで医用情報工学科では、毎年業界団体が開催するショウを授業の一環として見学しています。今年7月に東京ビッグサイトで開かれた国際モダンホスピタルショウ2007を見学しました。このホスピタルショウは国内外の企業が、病院など医療施設や福祉施設向けの機器や装置/ソフト/システムを展示するもので368企業が展示していました。私は学生の付き添いで行きましたが、あちこちの企業の展示サイトで「河村先生、卒業生の〇〇です。覚えていますか?」と声を掛けられました。展示の企画、開発システムの説明などを担当している卒業生でした。かなりの数の医療情報系企業の中堅スタッフと活躍している様を見て、頼もしく感じましたし、見学に行った学生達から「自分もしっかり勉強したら、あの先輩達のようになれるのかな。」との声も聞かれました。

おわりに
開設以来16年を過ぎ、企業や病院で中堅スタッフとして働く卒業生も増えてきています。ようやく卒業生が本格的に活躍する時期になってきたのか、と思います。学部4年間で学んだ知識や技術は限られたものですし、知識や技術は日進月歩で発展しつつあります。大学で学んだことはほんの基礎でしょう。これらを基に皆さん方が日々知識や技術の取得と研鑽を積み重ねられ、後輩達の二本となるような活躍を期待しております。



橋本真さん 医用情報工学科第1期生

医用工学部医用情報工学科第一期卒業生の橋本真です。

平成18年から医用情報工学科の河村教授・山下講師にご協力をお願いし、いくつかの産学共同研究をさせて頂いております。私は大学卒業後、医療コンサルティング会社に就職し、約1年間で日本各地の公立4病院への医療情報システム導入に携わりました。しかし、新米である私が医療情報システムの導入現場の中核にいられたのは単に、医療業界の情報化が遅れていて専門家が足りなかっただけなのだと気付かされました。私を含めた業界全体で医療における情報化のなんたるかについてあまりに理解が無かったのです。

その後、コンサルティング会社を退社した私は、地元である岐阜県で中小企業を相手にシステム開発を行うソフトウェアベンダーに転職しました。この企業はどこのメーカーにも属さず、独自性を重視し、自らの力で顧客の開拓からシステム設計・開発まで行っている活気のある会社で、開発システムの中には健康診断システムまでであると聞き、

直接、会社社長に会っていただいていたので採用して頂きました。結果、今日に至りますが、実に多くの業界の情報システムを経験させて頂きました。そして、「情報産業の最先端は医療業界にあらずして他の情報産業の先端を医療業界に持ち込まなければならない」という結論に達しました。久しぶりに共同研究という機会をいただいて大学に伺って先生方とお話して思ったことは、その先端を医療情報業界に持ち込むための社会的な窓口は、鈴鹿医療科学大学であることが間違いないという確信でした。未だに、医療情報業界はある意味閉ざされた世界ですが、大学を卒業した方々、またこれから卒業する方々が業種・職種・組織の枠を超え、大学を通じて繋がるのが新しい医療情報の仕組みを作って行く礎になるのだらうと思いました。

特に1期生は既に社会的には中核の立場に至る方も多々見えるはずですから、自分と自分の土台となった大学とのつながりについて今一度考えてみられると新しい世界が開けるような気がいたします。今の私の仕事を通した活動が大学を通じて社会に還元されるプロセスが、更なる「大学と卒業生の新しい関係」の創出に繋がればうれしく思います。



松本泰さん 放射線技術科学科3期生

鈴鹿医療科学大学卒業生の皆様には、日々ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平成19年新潟県中越沖地震に被災をされた方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

保健衛生学部放射線技術科学科第3期卒業生の松本泰と申します。今年の夏は、どこもかしこも猛暑に見舞われましたが、皆様はお元氣にお過ごしでしょうか。僕は、卒業してから現在まで、ずっと鈴鹿の地で診療放射線技師をしています。僕はもともと三重県の生まれですが、鈴鹿でかれこれ14年過ごすこととなります。でも、今年の鈴鹿は、今までに経験したことのないような暑さでしたよ(*_*)。

卒業してから、早10年が経過しました。先日、現在勤務している病院で、勤続10年表彰を受けました。なんだか、あっという間に過ぎ去った10年だったように感じます。今年に入ってから、僕自身の業務内容が大幅に変わりました。診療放射線技師の仕事はもろんのことながらこなしているのですが、それに増して、病院のオーダリングシステムを来年1月に更新するのに伴い、就職当初から、病院オーダリング

システムの放射線オーダーに関する業務に携わっていたこと、医療情報技師、医療画像情報管理士という認定を取得していることもあり、医療情報システム更新プロジェクトのメンバーに抜擢されました。本業以外の業務が多大に増えて、毎日が火の車状態です。しかしながら、僕自身、大学の頃から医療情報に関して興味があったので、このような大役をいただけることに、非常にうれしく思いながら業務をこなしている毎日です。

現在、本学の卒業生は、3,700人余りとなったそうですが、僕が医療情報に携わっていることもあり、いろいろなところで活躍する卒業生の皆様にお会いすることがあります。しかしながら、「横のつながり」というのがあまりないのではないのかなと思う、今日この頃です。「放射線技術科学科卒の人だから」と、寂しいことを言わずに、「横のつながり」を大切にしていきたいませんか？ 学校の名称が変わると、学科の名称が変わると、皆様は同じ鈴鹿医療科学大学(鈴鹿医療科学技術大学)の卒業生なのですから。これからも、いろいろなところでお目にかかると思いますが、その節はよろしく願いますね(〇〇)。

堀田彩乃さん 医療栄養学科13期生

私は現在、愛知県名古屋にある介護老人福祉施設「白社苑」で管理栄養士として勤務しています。施設は中村区の西、庄内川、豊公橋のもとにあります。平成15年に開設された新しい施設で、入所定員97名、通所定員30名の施設です。

私は、大学3年生時の老人福祉施設での臨地校外実習で、お年寄りの方と触れ合えたことがきっかけで今の就職先を決めました。お年寄りの方と触れ合うことをとても温かく感じ、美味しい食事を提供して、喜んでもらいたいと思ったからです。しかし、勤め始めて1ヶ月くらいは、そんな思いも頭をよぎらないくらいに色々な事に必死な毎日でした。利用者の方の顔と名前を覚えたり、献立作成の仕方、ケアマネジメントの書類の書き方を覚えたりと、たくさん覚えるのに一生懸命でした。2、3ヶ月目になってくると利用者の方の名前も覚えて、献立作成にも慣れてきて、書類も正確に書きこなせるようになってきました。最近では利用者の方の好き嫌いや、得意なこと、楽しみにしていることも1人1人言えるようになってきました。提供する食事にもちょっとした気配りができたり、顔を思い浮かべながら対応できたりと、とてもやりがいを感じています。利用者の方にとって、自分のことを知っていてくれるという事はとても嬉しい事だと思うので、ベ

ッドサイドを訪ねた時は、できるだけ色々なお話をするようにしています。編み物や塗り絵など、利用者の方の得意なことを話すと、話が弾み、とても楽しい時間を過ごせます。大学の臨地校外実習ではお年寄りの方とどう接していいのかわかっていた私にも、今は、どんな食事が喜ばれるか、どうしたら食べてもらえるようになるかを考えながら積極的に話ができるようになってきました。利用者の方から「この食事は色々なものが出て美味しいよ。」という声を聞いたときは最高でした。少しずつではありますが、人を喜ばせると、喜びとして自分に返ってくることを実感でき、忙しい中にも温かい気持ちを持てる毎日に充実感を感じています。辛いと感じるときも、誰かに喜んでもらいたいという気持ちが私を励ましてくれているのだと思います。

大学生の時に机上で勉強したことを、自分なりに実践していくにはまだまだ時間がかかりそうですが、この先、少しずつ利用者の方のために、応用力のある栄養士になっていきたいと思っています。また、名古屋には、同じ教室で勉強した仲間がたくさん居て、頻りに会って話そうができるので安心しています。大学生活での勉強や先生方、友達が今の私を支えてくれています。たくさんの人に感謝しながら、これからも頑張っていきたいと思っています。